

～対話型鑑賞会 at 905cafe～



■日時・会場

2012年3月11日(日) 13:00～15:00

905cafe <http://cafe.atelier905.com/>

■ナビゲーター

VTSJ 受講者 岡崎大輔

■参加者

10名

■開催目的

- ①参加者に対話型鑑賞で作品を鑑賞する楽しさを感じてもらう
- ②ナビゲーターとして場のデザインスキルを磨く
- ③豊かな対話が生まれるシーケンス選びのヒントを得る

■シーケンス(使用作品)

作品1

「Girl Reaching for Rose, Boston」 Paul D' Amato

Ektacolor print 1986年 58.4×88.9(cm) The Reader's Digest Art Collection

作品2

「Girl with blackeye」 Norman Rockwell

Oil on canvas 1953年 86.4×76.2(cm) Norman Rockwell Museum

作品3

「荘園」 橋本明治

日本画(絹本着色) 1934年 233.6×142.2(cm) 島根県立石見美術館

■シークエンス意図

テーマ: 描かれている女性の内面にある気持ちを感じること

作品1: 幼い子どもが必死に手を伸ばす様子から、その心境を読み解く

作品2: 親しみやすさの一方にある、複雑な感情を読み解く

作品3: 描かれた全体像から、秘められた感情を読み解く

■タイムスケジュール

13:00～ 自己紹介

13:20～ 作品①

13:45～ 休憩

14:15～ 作品②

14:40～ 作品③

～15:00 終了

■参加者の感想

- ・正確な知識じゃなくても感じたままを話す、というのは心地いい。アートはそれができるから楽しい。
- ・他の方の見方を聞いて、考え、最初思っていたものと変わっていくのが面白かった。
- ・参加者全員の前で鑑賞する、発言することは負荷がかかるため、うまく発言を救うナビゲーターの存在が重要な意味を持つと感じた。
- ・参加者同士の相性まで感じる事ができると思った。意見を通じてそれぞれの感性やアンテナに共感できる場面があった。

■ナビゲーター所感

今回の鑑賞会は初めて対話型鑑賞を経験する方もいたため、開催3日前に、ある写真データを送付しその写真はどんな場面を撮影したものか考えてもらうことにした。そして自己紹介時に、その写真について考えてもらった意見を発言してもらうことで、対話型鑑賞の疑似体験の場を提供することができた。これによってスムーズに鑑賞への導入が進んだのではないかと考えている。

作品鑑賞の中では「さっきの意見を聞いて」「そういう考え方でみると」「前の意見に触発されて」といった発言が出るなど、他者の意見を受けて考えを巡らせている様子を感じられた。ナビゲーターと鑑賞者との一対一のやり取りではなく、うまく鑑賞者同士の相互作用が起こったのではないかと考えている。しかし、ナビゲーターとしてはもう少し踏み込んで「さっきの意見とは具体的に？」とか「そういう考え方は具体的に？」という返しができれば良かったと感じている。鑑賞者が持っている思考の背景を明確にして全体にシェアできていれば、より鑑賞が深まったのではないかと考えている。

ただ、今回の鑑賞会で最も大切にしていた、対話型鑑賞を楽しんでもらうという目的はある程度実現できたと考えている。終了後「もう少し時間が欲しかった」というご感想をいただいたり、次回開催の予定を問い合わせたださったり、概ね好評を得ることができた。